



本校のクラス名が儒教の教えの中で人として「常に守るべき道」とされている五常の徳目「から採った「仁・義・礼・智」の名称「信」組は昭和十年の設置に改められたのは、明治三十八(一九〇五)年四月のことです。それまでは、「甲・乙・丙・丁」などがクラス名として採用されていたのですが、当時、甲種・乙種の商業科が設けられ学科名と学級名の呼称が同じになり、紛らわしくなったなどの理由により現在の呼称となりました。その後のクラス増加時には、さらに和・敬・清・昭(全日制)・海・明(定時制)などのクラス名を使用した年もあ

りました。数多い全国の学校の中でもこのようなクラス名を使用しているのは数少ないと思われるが、校訓代替として永年に亘って大切にしているのは誇るべきことだと思えます。
改めて、それぞれの言葉の意味を紹介(第十七代 木下宗一校長の解説を参考に ※は、本校入学の手引き書から)しますと、「仁」は、背中に重い荷物を背負った人の意味。そこから、「任(荷物)」「忍(こらえる)」の意味があり、さらに「親しむ」「愛する」「慈しみたわる」「思いやる」などの意味もある。※愛情が深い思いやりがあること。(あ

る方から何うと中国で最も徳のある漢字が「仁」であるとのこと)「義」は、美しい舞の姿。礼を行ふ美しい姿。義は誼であり、事に応じて最善で最も美しく処置をすること。また、他人と親子兄弟の関係を結ぶ意味にも用いられる。※人として守るべき正しい道にかなうこと
「礼」は、旧字体で禮であり、神に酒を献ずる意味で、礼は、神に拝礼をしている意味。礼儀・お辭儀・感謝の心などの意味にも用いられる。※他人を尊重すること
「智」は、知と同義の漢字で、口で続けざまに述べるという意味。理解して考えるはたらき、かしこいなどの意味にも用いられる。※知恵が豊かで正しい判断をすること。

「信」は、口から出るとい意味の言が内となる心と一致する。口から外に出す言葉が内なる心と合致する意味。うそを言わない。誠・誠実という意味。※言(こと)と心が一致すること。
「和」は、古代の日本人が重んじた徳目で、やわらかく・おだやか・むつまじいなどの意味。※もの静かで、あたたかいさま。
「敬」は、儒教に多く出る言葉の一つで、つつましくやまうなどの意味。
「清」は、誠実な心の形容で、古代日本人が重んじた徳目。曲がったことや濁ったことを拒否して清潔さを貫くこと。
「淨」も、清とほぼおなじ意味だが、やや仏教の影響があり、心に汚れがないこと。※けがれのない、心の美しいさま。
これらのクラス名は、約百年間もの水きに亘って本校のクラス名として用いられ、本校に学ぶ者として、呼称の中に託されている崇高な道徳感について誇りと自覚を持って実践し、次代へと継承していかなければならないものと思えます。